出向者からのメッセージ

内閣官房 01

内閣官房内閣総務官室（各省第１担当主査）

米山 綾乃 *Yoneyama Ayano*

Career

平成 25年　大臣官房人事課給与第２係
平成 27年　賞勲局審査官付審査第七係
平成 28年　総務省行政評価局政策評価課
平成 30年　大臣官房政府広報室広報第２担当主査付
令和　2年　賞勲局審査官付審査第六係長
令和　4年　賞勲局総務課企画調査第一係長
令和　5年　現職

出向先の紹介と自身の主な業務内容

内閣総務官室では、内閣総理大臣とその他の国務大臣で構成され、内閣の意思決定を行う「閣議」に関する業務を行っています。

その中で、各省担当は、各府省庁で閣議にかけたい案件がある際の窓口として、案件の登録や閣議にかける資料に誤りがないかの審査、閣議書の作成などを行っており、わたしは内閣府・内閣府の外局・法務省・防衛省の担当をしています。

また、組閣や内閣改造の際には、首相官邸において、大臣の参集状況の確認やニュースでよく見る階段での記念撮影のために大臣を整列させるなどの業務も行います。

出向することで経験できたこと、得られた知見

自分が関わった閣議案件がニュースになったり、逆に、話題になっていたニュースに関連する案件が閣議にかかったりするので、自分の仕事が日々の生活とつながっていることを実感できています。

また、内閣府の担当をしていることから、内閣府の様々な施策を知ることができます。自分が内閣府にいるときは、目の前の業務に関することしか見えていませんでしたが、内閣府ってこんなこともやっているんだと、日々、新たな発見があります。その一方で、他省庁の視点で外から内閣府を見るので、内閣府のあまり良くないところに気づくこともあり、自分が内閣府に戻ったときに気をつけないといけないなと考えています。

消費者庁 02

出向先の紹介と自身の主な業務内容

消費者教育と聞くと難しく考えてしまうかもしれませんが、国民の一人一人が自立した消費者として、安心して安全で豊かな消費生活を営むための重要な知識です。幼児期から高齢期まで、全ての消費者がライフステージに応じた消費者教育を行えるよう、消費者教育教材や普及・啓発資料を作成し、情報発信に努めています。

その一つとして、VR動画を用いた自分事として消費者トラブルを疑似体験できる体験型教材「鍛えよう、消費者力 気づく・断る・相談する」を活用し、幅広い世代が「消費者力」を身に付けられるような取組に力を入れています。

出向することで経験できたこと、得られた知見

「消費」という行為は全ての人が毎日のように行うことです。ニュースや新聞などで取り上げられている事柄も多く、消費者の安全・安心を守るためにはどうしたら良いのかを常に自分事として考え、意見を発信できる消費者庁の仕事はとてもやりがいがあると感じています。また、他省庁や民間、独立行政法人等、多様なバックグラウンドの方々が所属しており、行政の立場からだけでない意見に接することで、より深みのある政策につなげることができました。

出向中に得た知見を活かして、内閣府の多岐にわたる業務においても様々な角度から物事を見つめ、社会のためになる政策につなげていきたいです。

消費者庁消費者教育推進課基盤整備第一係

水品 磨乃 *Mizushina Mano*

Career

令和　4年　経済社会総合研究所景気統計部
令和　6年　現職

こども家庭庁 03

こども家庭庁長官官房参事官（総合政策担当）付

篠原 諒 *Shinohara Ryo*

Career

令和　2年　大臣官房公文書管理課企画・調整係
令和　4年　内閣官房こども家庭庁設立準備室室員
令和　5年　現職

出向先の紹介と自身の主な業務内容

こども家庭庁は「こどもまんなか社会」の実現を目指し、こども・若者や、こどもたちを育て、支えている方々の声を政策のまんなかに据えた取組を進めることをミッションとしています。

私が所属するこども意見係は、このミッションや「こども基本法」において、国や地方自治体に対して、こども・若者などの意見をこども施策に反映させるための措置を義務づけることが規定されたことを踏まえ、こども・若者自身の声を聴き、それを政策に反映させていくという、これまでの行政にはなかった新しい取組の企画及び立案を行っています。

出向することで経験できたこと、得られた知見

こども家庭庁の設立前から、こども・若者の意見を聴き、それを政策に反映させる取組の検討に関わってきましたが、国レベルではほとんど実施されておらず、すべての取組がゼロからの企画・立案でした。何もないところから新たな取組を生み出す仕事に携わることができたのはもちろんですが、それ以上に、こども・若者に関する政策について、当事者であるこども・若者の意見を聴く姿勢に変わっていく、こども・若者政策の転換点に立ち会えたことは、非常に貴重な経験でした。

在チリ日本国大使館 04

出向先の紹介と自身の主な業務内容

チリは、地球の反対側にある遠く離れた国ですが、日本との国交は127周年を迎え、また、銅やリチウム、サーモンの主要な輸出元であるなど、意外にも関わりの深い国です。ここチリに置かれている日本国大使館では、チリ政府との様々な交渉のほか、政治・経済に関する情報収集、日本文化に関する広報活動、旅券・査証手続や邦人援護、日本企業の支援等を行っています。

私は、経済担当として、主にマクロ経済に関する情報収集に従事しており、チリの経済情勢や各種政策を調査し、定期的に外務省本省や当地で活動する日本企業へ報告しています。

出向することで経験できたこと、得られた知見

大使館では、外交官という立場で、チリ政府や経済界の要人、著名な学者等と実際にお会いする機会があります。このような方々から伺う示唆に富んだお話は、自身の知見を深める貴重な糧となります。

また、時にはチリ以外の国で仕事をする機会にも恵まれます。ペルーでAPECが開催された際には、応援要員として現地へ派遣され、総理及び外務大臣の国際会議出席のサポートに当たりました。

日本とは、気候も文化も言語も異なる地での生活は、もちろん大変な面もありますが、大使館員や日本企業の方々と交流しながら、充実した日々を送っています。

外務省在チリ日本国大使館二等書記官

畑中 拓也 *Hatanaka Takuya*

Career

平成 25年　大臣官房会計課契約第３係
平成 27年　大臣官房総務課調整第３係
平成 29年　政策統括官（経済財政運営担当）付参事官（総括担当）付
令和　2年　政策企画専門職（政策統括官（経済社会システム担当）付参事官（総括担当）付）
令和　4年　消費者庁総務課人事企画室任用係長
令和　5年　経済社会総合研究所情報研究交流部研究交流官付研究専門職
令和　6年　現職

職員の1日のスケジュール

日本学術会議事務局参事官（審議第一担当）付審議専門職

中島 さやか　平成21年入府
Nakashima Sayaka

現職の業務内容を教えてください

人文・社会科学系の部会や委員会等の運営業務を担当しています。会員・連携会員の先生方との連絡・調整が主な仕事です。

日頃業務を行う上で意識していること

優先順位を考え、正確に遅滞なく業務を行うよう意識しています。また、上司や同僚とコミュニケーションを大事にしています。

繁忙期と閑散期、1年間を通して、何を意識して業務に取組んでいますか

繁忙期に備え、閑散期のうちに事前にできる作業を進めています。また、繁忙期は特に、自身と子どもの体調管理に気を付けています。

あなたの気分転換の方法は何ですか

朝、家族が起きる前の１人時間にストレッチをしたり、週末に外食に行ってリフレッシュしています。

育児のため休憩時間を30分に短縮しています。簡単なお弁当を持ってきて自席で食べています。

9:30 メールチェック

まずはメールチェックを行います。会員等からの連絡・問合せメールが多く届きます。一通り目を通したら、対応が必要な案件について優先順位を決め整理します。これにより、効率よく正確に業務が進められます。

10:00 会員・連携会員とのメールのやりとり

会員等からの連絡や問合せについて、メール返信します。問い合わせの回答に当たっては、前例を調べたり法規集を確認し、正確に回答します。回答内容に迷う時は早めに上司・同僚に相談し、効率よく対応します。

12:15 お昼休憩

育児時間の取得により勤務時間を短縮しています。保育園に次女を迎えに行き、帰宅後、家事をしながら小学生の長女の帰りを待ちます。テレワークの日は、夕方に子供と買い物に行くなど、時間を有効に活用しています。

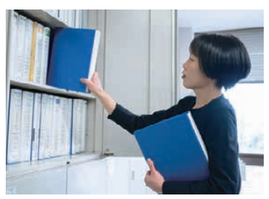
13:00 上司との打ち合わせ、資料作成

人文・社会科学系の部会に向け、今後の進め方や資料について上司と打ち合わせをします。前例となる会議の資料等を事前に確認・整理しておくことで効率よく打ち合わせが進みます。打ち合わせを踏まえ、資料を作成します。

15:00 会議開催準備

会議開催手続きを行い、会員等に開催通知を送ります。一度に多くの宛先にメール送信するため、宛先に誤りがないか等、細心の注意を払います。
翌日に日本学術会議で会議が開催される場合は、会議室の準備等を行います。

16:15 退 庁



大臣官房会計課審査第１係

川本 航平　平成30年入府
Kawamoto Kohei

現職の業務内容を教えてください

内閣府及び内閣官房に関する予算の執行管理業務や会計検査院が実施する会計実地検査対応などを担当しています。

日頃業務を行う上で意識していること

職場内では周りの方々と積極的にコミュニケーションを図り、上司などとも風通しのよい環境をつくることを意識しています。また、業務の優先順位の明確化や作業の効率化を追求し、業務の効率性を高めることにも取り組んでいます。

繁忙期と閑散期、1年間を通して、何を意識して業務に取組んでいますか

閑散期は定時退庁や有給休暇の取得を心掛け、繁忙期を含めた１年間を通してメリハリをつけるようにしています。

あなたの気分転換の方法は何ですか

週末に野球（内閣府の部活動）をしてストレスを発散しています。特に内閣府は様々なバックグラウンドを持った方々が在籍しており、業務を超えたコミュニティの中で聞くことができる話などはとても新鮮で興味深いです。

食堂を利用することもあれば、同僚とランチに出掛けることもあります。昼休み中はできる限り仕事のことは忘れてONとOFFの切り替えを大切にしています。

9:30 メール、スケジュールの確認

メールは緊急性や重要度の高い案件がないかを確認し、必要に応じて当日のスケジュールも考慮しながら優先的に処理するよう心掛けています。

10:30 作業依頼への対応

期日から逆算して作業スケジュールを立てることを意識しています。また、作業スケジュールを立てる際は特定の作業日を設けるのではなく、複数日で作業を進めることで、内容を複数回確認できる場を設けています。

12:00 お昼休憩

13:00 決裁資料の確認

他部局などの決裁資料を確認します。決裁を滞留させてしまうと事業開始の遅れなどにもつながりますので、迅速にかつ正確に確認するよう努めています。

15:00 問い合わせ対応

現在の係は他部局からの会計事務に関する問い合わせも受け付けており、問い合わせが来れば優先度を上げてできる限り早く対応できるよう努めています。

17:00 各種資料の作成

関係各所への情報収集等を通じて、予算の執行管理業務を効率的に行うための資料作成を行います。正確な資料作成が後々の自分を助けることに繋がります。

19:00 退 庁

翌日以降の対応で問題ないものは積極的に翌日へ回し、定時退庁を心掛けています。退庁後は同僚とよく飲みに行ったりしています。

キャリアパスのイメージ

採 用
入府後に、新採用職員研修を実施します。内閣府の業務概要のほか、国家公務員としての心構えなど基礎的な知識を学びます。その後、各部局に配属されます。

係 員
内閣府職員の１年生として、先輩や上司から業務の内容や仕事の進め方などを学びます。また、最初は、所属課や係の窓口として、関係部署との連絡調整を行う機会も多くなります。

係 長
各係の施策を達成するため、資料作成や関係部局との連絡調整といった具体的な業務の責任者となります。部下への指導も重要な役割となります。

課長補佐
様々な部局を経験する中で培ってきた専門性を活かしつつ、課の施策の取りまとめなど、課長を支える重要な役割を担います。

管理職
課や室の施策責任者として、各種会議に出席する機会も多くなります。また、課室員全体のマネジメントも重要な役割となります。

係長級の職員

Message 01

大臣官房人事課給与第１係長

樋下 佳奈 *Toishita Kana*

平成 26年	賞勲局総務課企画調査第二係
平成 28年	賞勲局審査官付審査第七係
平成 29年	内閣官房内閣総務官室
平成 31年	内閣官房公文書監理官室室員
令和　3年	調整担当主査（政策統括官（沖縄政策担当）付参事官（総括担当）付）
令和　5年	日本学術会議事務局参事官（国際業務担当）付国際業務総括専門職
令和　6年	現職

○内閣府で働くことについて

ここまで御覧になった紹介だけでも、内閣府の所掌事務の広さを感じていただけたのではないでしょうか。テレビやネットの広告でも見かける政府広報や経済財政政策、毎年春夏の勲章の授与等、みなさんの暮らしのどこかで内閣府が携わるものに触れているのではないかと思います。

沖縄政策では、本土復帰50年を前にこれまでとこれからの沖縄振興について、地元の方々を含め様々な分野の方々と意見交換や議論を重ねながら、沖縄振興特別措置法等の改正や復帰50年に関連する催し等に携わりました。色々な考えがある中で方向性を固めることの難しさを痛感するとともに、方向性をまとめるための進め方等はその後の日々の業務にもつながっていると感じています。

また、自治体や民間出身の方々とも一緒に業務をすることが多くありますので、新しい視点を知ることができたり議論が深まることもあり、このような機会が多いのも内閣府ならではないかと思います。

○係長級の職員になって感じたこと

係員と大きく違うこととしては、係としての方向性を検討・判断する機会が増えること、部下をもつことがあると思います。検討・判断にあたっては、係員時代の上司や周囲の方のされた対応が、係長になって対応する際のヒントになることがたくさんあり、そのような方々に恵まれてありがたいなと思っています。また、部下とも連携して業務を行いますので進捗管理や効率も踏まえ進めることや、お互いに相談しやすいようにすることを意識しています。

○仕事とプライベートの両立について

仕事とプライベートのオンオフを切り替えることが、快適に過ごすことにつながっていると感じています。業務内容にもよりますが「自分しかできない仕事」というのはなるべく少なくして、上司や部下と進捗を共有しながら分からないことは周囲に聞いて自分だけで抱え込まないよう心がけています。そうすることで仕事も取り組みやすくなる面があると思いますし、プライベートの過ごし方にもプラスに働く面があるように思います。

○内閣府が求める人材について

様々なバックグラウンドをもつ方々と一緒に仕事をする機会が多くあり、その分、色々な角度から議論や意見を交わし方向性を固めることも多々ありますので、自分が関わっていること以外にも関心を向けたり（その後の業務につながったり、困った時の助けになることも！）、コミュニケーションをとってみようと行動に移せる方が向いているなと思います。

○あなたにとって仕事とは？

暮らしとのつながりであり、自分が携わったことが何かしらの形で誰かの生活につながっていて、それには責任が伴うものだなと思っています。現在は職員の給与支給に関する業務を行っていますが、給与は職員のみならず御家族の日々の生活にも直結するものであるため、特にそれを実感することが多く、また、確実な給与支給をすることの責任も日々感じています。

課長補佐級の職員

Message 02

調査企画専門官（政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付）

伊藤 久仁良 *Ito Kuniyoshi*

平成 17年	国民生活局市民活動促進課
平成 19年	大臣官房総務課調整第２係
平成 21年	政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（企画担当）付
平成 23年	大臣官房総務課秘書専門職付内閣府大臣政務官付
平成 24年	大臣官房総務課秘書専門職
	大臣官房企画調整課調整係長
平成 26年	男女共同参画局総務課国際機関係長
	内閣官房すべての女性が輝く社会づくり推進室室員
平成 27年	政策企画専門職（政策統括官（経済社会システム担当）付参事官（総括担当）付）
平成 28年	外務省在スリランカ日本国大使館二等書記官
平成 31年	消費者庁総務課管理室職員係長
令和　2年	消費者庁総務課人事企画室人事企画係長
	大臣官房企画調整課計画推進係長
令和　3年	大臣官房企画調整課情報総括係長
令和　5年	現職

○内閣府で働くことについて

私が通学していた大学では内閣府職員の方による講義があり、その講義を受講し内閣府を知りました。このため、内閣府は、政府の経済政策の方向性を扱っているとの漠然としたイメージをもって入府しましたが、入府後の経験を通じて、内閣府は、幅広い政策の基本的な方向性を扱っているとの認識に昇華しました。例えば、男女共同参画局在籍時には、女子差別撤廃条約に基づく各省の履行状況を取りまとめる業務にも従事し、その後、内閣官房に併任となる形で女性の活躍推進を担当することとなりました。女性活躍推進室では、有村治子女性活躍推進担当大臣のもと、女性にとって暮らしやすい社会は男性にとっても暮らしやすい社会であり、こうした社会を目指すため「暮らしの質向上検討会」という有識者会議の運営を担当させていただきました。これらの業務を通じて、官邸や大臣のお考えを踏まえつつ、広報効果（パブリシティ）を念頭におく習慣を身に着けることができたと考えています。

○課長補佐級の職員になって感じたこと

課長補佐以上が構成員となる局議へ参加するようになり、統括官が日々考えていることを念頭に業務を組み立てる等目線が広がったと思います。また民間からの出向者を部下に持つことから、民間レベルを想定したマネジメントを意識するようになりました。1on1ミーティングを定期的に実施し、部下の家庭環境を踏まえつつ、能力開発につながる研修の受講や業務内容を一緒に考えています。

○仕事とプライベートの両立について

仕事とプライベートは相互につながっていると考えており、家事育児も自分と妻どちらか一方に偏らないよう、得意不得意も踏まえつつ分業しています。現在はヨーロッパ経済分析を担当している都合上、平日は帰宅が遅くなりがちなので、平日朝と休日を中心に家事育児を担当しています。私は料理や掃除が好きなので、晩御飯の準備や買い出し、お風呂掃除を子どもたちと一緒にすることで、家事育児とともに子どもたちとの時間を楽しんでいます。

○内閣府が求める人材について

内閣府は業務として扱う内容も幅広く、その内容も日進月歩で変化していきます。このため、予算、国会、法律、デジタル等の高い基礎力に加え、経済社会の動きを日々勉強し、経済社会のありたい姿を考えていくことが求められます。未経験の業務や政策であっても、ありたい姿を一緒に悩み、考えてくれるような、好奇心旺盛な方と一緒に働けることを楽しみにしています。

○あなたにとって仕事とは？

仕事とは自分の幅を広げてくれるきっかけだと思います。社会勉強の場として日々刺激をくれており、様々な業務や研修受講、通学等から得た知識を業務で実践する中で身に着け、能力の幅が広がりました。また英語学習活動を通じて妻と知り合い、また、英語学習を続けたことが念願の海外駐在へとつながった経験からより前向きに勉強するモチベーションとなりました。

内閣府のロールモデルの例

1. 官邸直結の政策マネジャー・プロジェクトマネジャー

総理のリーダーシップを支える中心的な存在として、官邸や特命担当大臣に直結し、国政上重要な政策の企画立案・総合調整を行う。

2. 組織基盤を支えるエキスパート

内閣府のみならず、官邸・内閣官房を含め、国会業務や総務・会計部門等のエキスパートとして、行政運営の基盤を支える。

3. 国民目線に立った政府のセンタープレーヤー

社会の在り方、国民生活に密接に関わる分野において、国民目線に立って政府部内を強力に調整し、政策を推進する。

4. 政策・制度に立脚し、現場との接点を持つ政策分析専門家

経済財政、科学技術分野等、政策・制度の企画立案に貢献する人文・社会・自然科学的知見を実証に基づき提供する。

5. 総理直轄分野の政策プロフェッショナル

栄典行政、公式制度、公文書管理など国家の基盤に関わることや、沖縄政策・北方対策など特別の理由に基づき総理が担当することがふさわしい分野におけるプロフェッショナルとして政策を推進する。

研修制度について

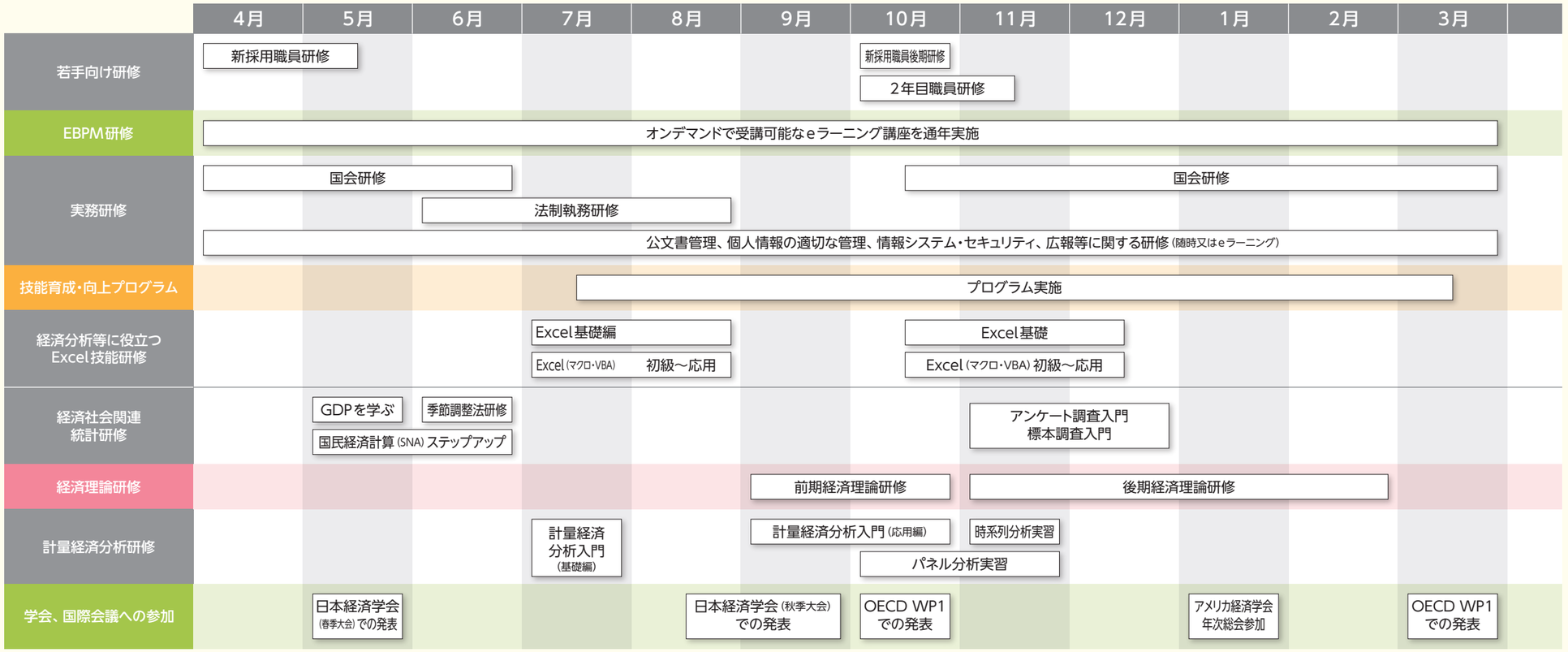
各種研修・働き方改革セミナー等

幅広い業務を担っている内閣府では、職員の成長、専門性の向上等のための機会や独自の研修制度が整備されています。

研修等

新採用職員・若手職員・管理職向けなど、各階層で必要なスキルを身に付けられる研修のほか、国会業務、会計実務等の配属先で必要となる知識を学べる研修や、Excelスキル、経済分析手法等を学べるスキルアップ研修等もあります。

また、幹部候補育成過程に選出された職員は、内閣人事局が実施する研修などを受けることができます。このほか仕事をしながら大学へ通っている先輩職員もいます。



DX推進について

内閣府の働き方改革やDX推進の取組状況を紹介します。

知恵の場そして企画立案・総合調整機能を有する内閣府は、各省庁、民間、自治体からの出向者等が多く活躍しており、ダイバーシティに富んだ組織です。そのため、様々な専門性や背景を有する職員一人一人が生き生きと活躍できるよう、働き方改革やDXの推進に取り組んでいます。

令和４年、内閣府は、大臣官房に働き方改革・DX推進室を設置しました。そして、令和６年には、行政の生産性や情報セキュリティの向上、そして職員が柔軟に働けるよう、政府共通の標準的なPCやネットワーク環境（ガバメント・ソリューション・サービス（GSS））を導入しました。これにより、デジタル環境が大きく変化し、チャットや自動化のためのアプリケーションの活用、また、テレワーク時における個人所有のPCやスマートフォン・タブレットの業務への活用（BYOD）など、業務効率化の幅が広がり、柔軟な働き方、コミュニケーションの活性化が進んでいます。また、職員のデジタル・リテラシー向上のため、各種研修や勉強会も開催しています。さらに、1on1ミーティングや管理職クラスにマネジメントや職場の状況をフィードバックするための「多面観察」の実施、「学習する組織」の定着など、組織の在り方、マネジメントの在り方についても取り組んでいます。

働き方改革・DX推進室は、内閣府のミッションを実現するために、職員が生き生きと、働きやすい職場環境づくりにこれからも取り組んでいきます。

内閣府のミッション

- 国政上の重要課題への解決を主導する「知恵の場」
- 国政全体を俯瞰した立場からの企画立案・総合調整
- 内閣総理大臣が直接担うにふさわしい業務を担当

内閣府のビジョン

- 国全体の在り方を考えた行政の実現を目指す組織
- 多様化・複雑化する課題に対しアジャイルに対応する「学習する組織」
- 組織と職員、職員間の信頼関係が高く、ワークライフバランス実現のための環境を備えた組織

こんなことも・・・

働き方改革の取組の一つとして、内閣府が入る合同庁舎８号館では、令和４年からキッチンカーの営業が開始されました。食堂・喫茶やコンビニに加え、月曜日から金曜日までキッチンカーによる日替わりメニューが提供され、ランチのわくわく感が向上しています。

CROSS TALK

内閣府本府採用の若手職員に就活から今までの業務経験、
今後の目標などについて、ざっくばらんに話してもらいました。

就活について

加藤　内閣府に興味をもった理由としては、何気なく見た政府広報のテレビCMでした。そこから自分なりに内閣府の事を調べて、幅広い業務を経験できる点に魅力を感じ、志望しました。自分では気付かなかった興味や関心のある分野に出会えるチャンスが多くあると感じ、就職先として内閣府を考えました。

また、官庁訪問についてですが、僕の人生で初めての「就職面接」が内閣府の官庁訪問でした。とても緊張してしまい、最初の面接で口が回らなかったことは今でも恥ずかしい思い出です。

ただ、面接の回数を重ねていくにつれ緊張はほぐれ、僕の内閣府に対する気持ちをきちんと伝えられたことはよかったなと当時の自分を褒めてあげたいです。

小鍋　内閣府は基本2年で異動があると聞き、幅広い業務を経験したいと思い内閣府を志望しました。他の省庁にはない多種多様な業務に携われる機会があること、また、出向者が多いことも知り様々なバックグラウンドを持った方々と関われることに魅力を感じました。

官庁訪問については、緊張しており内容はほとんど覚えていません(笑)。ただ、当時の任用係の方々がとても気さくに話しかけてくださったのを覚えております。お堅いイメージがあったのでびっくりしました！その際に内閣府楽しそう！働いてみたいなと思ったことをよく覚えています。

入府１年目の思い出

加藤　これはよく言われがちではありますがやはり「お堅い」イメージがありましたし、ものすごく厳格な組織だと思っていました。でしたが、実際に働いてみると、とても風通しの良い職場でした。休みの相談などもしやすく、職場での雑談では、スポーツの話題やK-POPアイドルの話などで上司と盛り上がりすぎてしまうことも多々あります。

社会人１年目の頃は、業務プロセスや基本的なこともわからず、業務に時間がかかりすぎてしまうことがあり苦労しましたが、何がわからないのかを明確にし、上司のお時間を奪わないよう簡潔に質問することを心がけ解決していました。

小鍋　新人研修最終日、「サイバーセキュリティ・情報化推進室ネットワーク担当」に配属と聞いたときはシステム関係に苦手意識を持っていたため不安な気持ちが大きかったです。システム用語を覚えて理解するのは難しかったですが、勉強していくうちに段々と知識を身に着け、自分自身で成長を感じることができ働いていて楽しかったです。また、当時の上司が「わからないことをわからないままで終わらせないように。自分で調べてわからなければすぐに聞いてね。」とおっしゃってくださったため上司へ気軽に質問がしやすい雰囲気であり、システムへの苦手意識はなくなりました。

今までの業務経験について

小鍋　思い出が残っている業務は、デジタル庁が提供する「ガバメントソリューションサービス(GSS)」に携わった業務です。こちらは1・2年目の際に経験しました。主に業務用端末やネットワーク環境などの業務実施環境を整える業務を担当しました。内閣府・内閣官房の担当者はもちろん、デジタル庁・復興庁・こども家庭庁等他省庁の担当者と密に連絡をとりプロジェクトを進めることは大変難しかったですが、大きなやりがいも感じました。内閣府は本府・8号館以外にも都内に複数拠点があるのですが、GSS業務の際にそのほとんどの拠点を訪れたのが印象に残っております。当時は業務を通してたくさんの方々と関わることができ、協力していただき大変感謝しております。

現在は、前部署とは全く違う会計の業務を行っております。今後どの部署に異動しても活かせる仕事なので1つ1つ理解し丁寧に勤めていきたいです。

加藤　今まで経験した業務としては統計の集計・公表作業。また審議会の運営を経験しました。また、総括業務も担っていたので部・課全体が円滑に業務をこなせるよう様々な調整業務を行っていました。

どれも簡単なものはなく苦労はしましたが、上司の助けもあり、何とかやりきることができました。やりがいがあり、僕自身の知見が広がった気がします。

学生時代に経験したカフェでのアルバイトでの電話対応や様々な業務を同時に行うマルチタスクは役に立っていると感じています。

印象的だったのは公表業務です。僕が作成した資料が実際に公表され、世に出た時の独特の緊張感と達成感が印象に残っています。

僕自身２年目で、まだまだ経験は少ないですが、内閣府でしかできない貴重な業務ばかりで毎日いい刺激を受けながら業務をすることができています。

休日の過ごし方

小鍋　友人とのみに行ったり、ライブに行ったりアクティブに活動する日もありますし、一日中家で漫画を読んだりアニメを見たりして過ごす日もあります。

長期休みは、実家の猫に会いに栃木へ行ったり旅行に出かけたりもします。去年の夏季休暇は仲のいい後輩と大阪旅行に行きとても良い休暇でした。今年は長崎に行く予定です！後輩とこんなに仲良くなれると思っていなかったので嬉しいですし、癒やされます。いいリフレッシュになります。

加藤　最近はもっぱらお酒にあう美味しい一皿を求めてビストロ巡りに没頭しています。また、趣味でフットサルをやっており、内閣府の職員で集まりみんなでフットサルをしていまして、そこで知り合った先輩方とのご縁ができることも楽しみの一つです。また、Jリーグのシーズン中はサッカー観戦をしにスタジアムに足を運ぶことあります。

あまり多趣味ではないので一人でショッピングをする日もあり、そういった日は、気になるカフェにふらっと入りのんびりと過ごしています。

今後の目標や経験したい業務

加藤　今後の目標としては、この内閣府という様々な業務に携わり、挑戦することができる環境で自身の知見を広げ、それらを活用できるようになる職員になることです。

なかなか難しいことではありますが一つ一つの経験を大切にして少しでも近づけるように精進します。

今後は「人と関わる」要素の強い業務を経験したいと考えています。特に審議会もそうですが、何かの祭典や催し物に携わることができるとより自身の力の発揮できるのではないかと勝手ながらに思っています。

小鍋　柔軟に行動でき、頼りにされる職員になることが目標です。先輩方に相談に乗ってもらい助けていただいた経験があるため、自分も後輩から相談を受けるような職員になりたいです。そのためには知識を身につける必要があると思います。今の部署は会計と庶務の業務をしており、どの部署でも活かせるため知識を増やせればと思います。会計業務は部局の要望に応えられない時もあるため根拠をしっかり説明し柔軟に対応していきたいです。

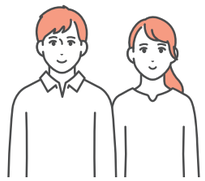
内閣府を志望している方へメッセージ

加藤　国の職員である国家公務員は経験し難い業務が数多くあります。特に内閣府は様々な分野で業務を行うことができます。多岐にわたる業務を行える内閣府は、日々新たな発見に出会える環境だと思います。皆様と一緒にお仕事ができる日を楽しみにしています。

小鍋　内閣府は２年異動が基本のため、多くの経験ができたくさんの方と関わることができます。また、内閣改造対応や新しい省庁をつくるための対応など内閣府ならではの貴重な業務を経験できます。一緒に働ける日を楽しみにしています！

内閣府のワークライフバランス

職員が仕事と家庭を両立できるよう、様々な支援制度が用意されています。

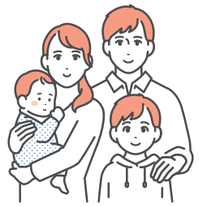


パパ・ママ予定届

こどもが生まれる予定の職員を把握することで、職員が上司に気兼ねなく相談し頼ることができ、産休・育休を取得しやすい環境整備に取り組んでいます。

テレワーク

子育てや介護の関係で勤務条件に制約がある職員でも、そうでない職員も、柔軟な働き方ができるよう取組を進めています。



ウェルビー会

職場でも職場外でも、やりがいと生きがいを日々感じながら充実した人生を送るためには、内閣府職員のwell-being向上が何より大事!!をコンセプトに、毎月１回、子育てや趣味・府内で日ごろ感じていること等、年代や職位にこだわらず自由に話し合う場があります。

仕事と子育ての両立のための制度

育児休業取得者からのメッセージ

経済社会総合研究所景気統計部
研究専門職
高山 実穂
Takayama Miho
平成26年 入府

●育児休業中に感じたこと

私は、育児休業と海外同行休業をあわせて、娘が3歳半になるまで休職させていただきました。日々、急速に成長する娘を見守ることができたことは、人生において最も有意義な時間だったと思うと同時に、仕事を辞めて海外同行されている方がほとんどでしたので、仕事を退職せずに休業を選択させていただいたことに感謝しかありませんでした。職場復帰時は、約３年半も職場を離れていたことや、娘が初めて保育園に長時間通うこともあり、不安でいっぱいでしたが、職場のみなさんの温かいご配慮のおかげで、スムーズに職場復帰することができました。一方で、職場の周りの方や上司、家族のサポートなしでは、育児と仕事を両立することは不可能だということを改めて強く感じ、将来は、今度は自分が周りの方をサポートできるような職員になりたいと思っています。

●復帰後の仕事について

経済社会総合研究所景気統計部において機械受注統計を担当しています。設備投資動向を早期に把握し、経済動向を分析するための基礎資料となるもので、正確性や迅速性を求められますが、やりがいを感じながら日々勤めています。

●育児休業の取得前・後でどのように働き方が変わりましたか

出産前は残業も気にせず働いていましたが、今は保育園のお迎えに間に合うように帰らなければいけないので、優先順位をつけて仕事を進め、その日に終わらないものがあっても時間がきたらスパッと切り上げることを意識しています。

●育児と仕事の両立を考えている学生にメッセージ

出産後も希望する仕事を続けることはまだまだ難しい世の中だと思いますが、内閣府ではお子さんを何人も育てながら働き続けている先輩方が何人もいらっしゃり、私自身、辛いと思ったときは先輩方のことを思い出して励みにしています。また、支えてくれる優しい方もたくさんいます。私も今受けているサポートを皆さんに恩返しできるよう頑張ります！少しでも興味がわきましたら是非お越しください！

大臣官房会計課管財係長
宮北 優人
Miyakita Yuto
平成24年 入府

●育児休業中に感じたこと

第２子の出生時に約２か月間の育児休業を取得しました。第１子の出生時は、コロナ禍の真っ只中で、出生後数か月間は里帰りしていた妻と子どもに気軽に会いに行けず、産まれたばかりの赤ちゃんの育児に携わることができませんでした。今回の育児休業では、第1子では経験できなかった育児の一つ一つに挑戦できたことがとても嬉しかったですし、日毎に大きくなる赤ちゃんの成長の早さに驚かされました。短い期間ではありましたが、日々、子どもの成長を感じられる充実した期間となりましたし、上の子と関わる時間も増え、家族との時間を大切に過ごせる良い機会となりました。育児休業を取得する際も、上司や同僚に手厚くサポートいただき、安心して育児に集中することができました。

●復帰後の仕事について

大臣官房会計課管財係で、内閣府・内閣官房が所有する国有財産の管理に関する業務を行っています。

●育児休業の取得前・後でどのように働き方が変わりましたか

仕事を片付けようとしても時間が足りなかったり、子どもの体調に左右されてしまったりと、育児をしながら働くことの難しさを身をもって知ることができました。私が育児の先輩として最も力になれることは、大変さを察して仕事の手助けをすることで負担を少しでも減らしてあげることだと思います。自分が育児休業で受けた職場のサポートを、今後は周囲に返せるように意識して仕事をしています。

●育児と仕事の両立を考えている学生にメッセージ

育児と仕事をどちらも完璧にこなすことは不可能だと思います。1人で抱え込まず、上司・同僚や家族のサポートを受けて、その時にしか体験できない育児と仕事を楽しんでほしいと思います。

2024年度 入府者　からみなさんへ

2024年度に入府した先輩たちのメッセージを通して、彼らの志、内閣府の印象、そして内閣府を目指すみなさんへのメッセージを紹介します。

内閣府を志望した理由は？

特定の専門分野やバックグラウンドにこだわらず、技術系出身の私でも様々な業務に挑戦する機会を得られると感じたからです。

複雑な社会問題を包括的なアプローチで解決したかったからです。専門性の高い各省の施策を取りまとめる内閣府では、多角的な幅広い視点から問題解決に取り組めると考えました。

経済・社会の変化やニーズを先取りした業務に携わることができ、新しい分野に触れる機会が多いことに魅力を感じました。

政策分野にとらわれず幅広い業務に携われると考えたからです。入府後のキャリアパスが多様な点も魅力的でした。

内閣府には部局の数が沢山あるので、1つの事に集中！というよりも、色々なことをやってみたいと思う自分の性格に合っていると思ったからです。

内閣府は多種多様な部局があることから、多様な経験を積むことができ、多角的に国民の皆様の生活を支えられると考えたからです。

多種多様な業務内容と、先輩職員の方々の明るい雰囲気が魅力だったからです。

国の最前線に立ち、多種多様な業務に携われる環境を見て、この職場で様々な経験をしながら、自身の成長に繋げたいと感じました。

様々な業務を経験できるという点に魅力を感じたからです。また、説明会や座談会等のイベントに参加した際に感じた、職員の方の優しさや雰囲気の柔らかさも理由の一つです。

入府以来、一番印象に残っている仕事は？

令和6年秋の叙勲の審査業務です。非常に多い件数の審査をこなす業務は大変でしたが、審査が終わった時は達成感と安堵感を味わうことが出来ました。

組閣に携わったことです。国を支える仕事であることを改めて認識でき、強く印象に残っています。

こども霞が関見学デーの大臣プログラムを担当したことです。大臣レクから当日の司会進行まで大臣と至近距離でやり取りをおこない、非常に貴重な経験ができました。

統計調査やレポートの作成です。公表され、新聞等で報道された時は、仕事の重要性や達成感を感じました。

官邸で月例経済報告会議の準備を行ったことです。総理が出席するため一層緊張感がありましたが、貴重な経験を積むことができました。

親授式・伝達式では、書面だけで審査していた受章者に実際にお会いすることができました。また、皇居で勲章着用に携われたことは他には代えられない経験ができたと思います。

新旅費法の改正（約70年ぶりの改正）に微力ながらも携われたことです。歴史が変わる瞬間を最前線で見ること聞くことに携わることができました。

総理大臣や特命担当大臣が出席する総理表敬の準備や表敬中の撮影に携わったことです。無事に終了した際にとてもやりがいを感じました。

オリンピック・パラリンピック選手団への感謝状授与式に携われたことです。選手団の方が喜ばれている姿や授与式のニュースを見て、大きな達成感を感じました。

仕事上の夢や目標は何ですか？

多様な業務を経験することを通して、刻一刻と変化する社会情勢にも対応できる職員になりたいです。

上司の立場を踏まえた俯瞰的な視点を持つことで、困難な事案にも周囲と協力して臨機応変に対応することのできる職員を目指しています。

様々な業務を経験することで、日本社会に対して広い視野と知識を持ち、少しでも社会に貢献できることを目指しています。

どんな時でも先のことを考えながら臨機応変に業務に取り組み、多岐にわたって活躍できるような職員を目指しています。

様々なことを経験し、多角的な視点から物事をとらえることができる人材になりたいです。

自分が先輩方に教えてもらったように、これから入府する後輩に業務内容を丁寧に教える事の出来る人材になりたいです。

様々な業務を通じて得た経験や知見を活かし、多岐にわたって活躍するとともに、まわりから信頼される人材になることです。

分かりやすい・伝わりやすい説明を通じ、他の方と協力しながら、円滑に業務を進めることが当面の目標です。将来的には、関心のある分野にて、日本の社会課題の解決に寄与したいです。

入府を目指す学生へメッセージ

楽しくてやりがいのある仕事に携わることができます。皆さんと一緒に働けるのを楽しみにしています！

内閣府は非常に幅広い分野を所管しているため、多種多様な業務を経験したいという方にお勧めです。

官庁訪問は得体の知れない不安なものかもしれませんが、一度きりの人生・限られたチャンスをみすみす逃すことのないよう、全力でチャレンジしてください。

政策決定の場は、辟易とするほど繊細緻密でありながら、時にダイナミックに動き、非常に刺激的です。皆さまの入府をお待ちしております！

堅いイメージがありますが、全くそんなことはありません。自分にはどんな仕事が向いているかわからないという方、是非内閣府を選んでください。

配属先によって、業務内容や業務スタイル等大きく異なりますが、変化を楽しめるよい職場だと思います。筆記試験や官庁訪問で大変だと思いますが、皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています！

常に新しい学びを得たいと思う人に向いている職場だと思います。ぜひ庁舎に訪問し、インターネット上では分からない雰囲気を実際に体感してみてください。

内閣府は、多様な業務に携わることが特徴と感じます。入府後も様々な出会いがあるので、「やりたい事」が明確でない方でも、ぜひ御検討ください。

堅い職場という世間のイメージとは裏腹に上司や先輩は外交的な方が多くとても仕事のしやすい環境です。説明会や座談会を通して実際に職場の空気感を感じていただければなと思います！

みなさんからのよくある質問や業務説明会、
近年の採用状況についてご案内いたします。

Q1 内閣府ではどのような人材を求めていますか?

A 内閣府はその任務が広範多岐にわたり新たな行政課題を担当する機会が多いことから、特定の分野に偏らない「広い視野」と優先順位を的確に判断できる「バランス感覚」が求められます。ただし、これらの能力は内閣府で仕事をしているうちに自ずと磨かれていくものです。内閣府の使命に興味を持ち、国政の中枢で働くことへの意欲にあふれた方をお待ちしています。

Q2 出身学部や試験区分の違いは採用に影響しますか?

A 幅広い業務を所掌する内閣府では多様なバックグラウンドを持った人材を求めています。採用はあくまでも「人物本位」です。我が国の経済・社会の在り方や国政上の重要かつ最新の課題について旺盛な知識意欲を持って学ぶ姿勢、官民問わず様々な方と対話できるコミュニケーション能力などを評価しています。官庁訪問では、「ありのままの自分」をあなた自身の言葉で語ってもらえれば良いのです。

Q3 採用後は自分が興味を持っている分野へ配属されますか?

A 配属先は、職員の希望を踏まえつつ、人材育成上の必要性などを総合的に考慮して決定されます。また、人事異動は概ね2～3年毎に行われ、様々な業務を経験することにより、能力・適性に応じた専門性を培っていくこととなります。したがって、常に希望どおりの人事異動が行われるとは限りませんが、少なくとも入府後の数年間は国家公務員としての基礎体力を備えるための良い機会だと思って、何事にも積極的に挑戦していてください。なお、配属先に関する希望を申告する制度も用意されています。

Q4 給与はいくら支給されますか?

A 一般職（大卒程度）試験で採用された職員は月給271,200円、一般職（高卒者）試験で採用された職員は月給232,800円です。なお、職歴等がある場合には、この金額にさらに加算された金額となる場合もあります。採用後の昇給は毎年1月1日に行われます。この他、扶養手当（扶養家族がある者に、子11,500円等）、住居手当（賃貸のアパート等に住んでいる者等に最高28,000円）、通勤手当等の諸手当が支給されます。

さらに、6月と12月に期末手当・勤勉手当（いわゆるボーナス）が勤務成績等により異なりますが、標準の場合には、1年間に俸給等の約4.6月分が支給されます（採用直後は勤務期間が短いため、減額されます）。

Q5 採用後の社会保険等はどのようになりますか?

A 内閣府の職員として採用されると、内閣共済組合に加入します。共済組合では、職員の給与から徴収される掛金を基に、病気やケガ等をした際の医療給付や退職後の年金給付を行っています。これらは健康保険や厚生年金に相当するもので、職員が安心して職務に専念できるように生活面から支える制度として設けられているものです。この他、福利厚生としては、定期健康診断の受診、保養施設の利用、マイホーム購入時の資金融資等が用意されております。

内閣府の業務説明会のご案内

内閣府では、内閣府への興味や理解を深めていただくため、業務説明会などのイベントを実施しています。

業務説明会では、内閣府の役割・特徴や非常に幅広い業務内容について、採用担当職員がわかりやすく説明します!

その他、若手職員がこれまでの経験や職場の雰囲気などをお話しするコーナーや、より具体的な業務の内容を聞いたり、質問したりしやすいように少人数制による座談会も開催しています。

内閣府に関心のある方もない方もぜひご参加ください。あなたのやりたいことがきっと見つかるはずです。

最新情報は、内閣府ホームページからチェックしてみてください!

Q6 転勤や出向はありますか?

A 内閣府の勤務地は、主に東京都となります。多くの省庁のように数年おきに転勤を繰り返すことはありませんので、単身赴任等を心配することもなく、安心してライフプランを設計することができます。

一方、内閣府では他省庁との人事交流を積極的に行っています。現在の主な出向先は下図の通りです。特に内閣官房へは多くの職員が出向しており、国政の中枢を支えています。また、能力や適正に応じて、在外公館等に出向する機会もあります。多様な行政分野や価値観に触れ、考え方の幅を広げる重要な機会となっています。

主な出向先（令和6年2月現在）

●他省庁・地方など

総理官邸などの内閣官房、内閣法制局、宮内庁、警察庁、消費者庁、総務省、外務省、文部科学省、国土交通省、環境省、復興庁、参議院、沖縄総合事務局、独立行政法人など

●在外公館

クロアチア大使館、スリランカ大使館、チリ大使館

近年の採用状況

	一般職（大卒程度）		一般職（高卒者）	
採用年度	採用男性	採用女性	採用男性	採用女性
令和3年度	6名	12名	7名	9名
令和4年度	8名	8名	5名	11名
令和5年度	9名	12名	7名	11名
令和6年度	6名	9名	10名	11名
令和7年度	7名	8名	9名	11名

その他、聞きたいことや確認したいことがありましたら、「内閣府一般職採用担当窓口」までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先
内閣府一般職採用担当窓口　大臣官房人事課任用係
〒100-8914 千代田区永田町1-6-1　TEL:03-5253-2111（内線31343）